



世界セレクトティブ株式オープン※

〈為替ヘッジなし〉

世界セレクトティブ株式オープン

世界セレクトティブ株式オープン（年2回決算型）

〈為替ヘッジあり〉

世界セレクトティブ株式オープン（為替ヘッジあり／年1回決算型）

世界セレクトティブ株式オープン（為替ヘッジあり／年2回決算型）

追加型投信／海外／株式

※上記4ファンドの総称として「世界セレクトティブ株式オープン」を用いています。

■各ファンドの略称としてそれぞれ次を用いることがあります。

世界セレクトティブ株式オープン : 為替ヘッジなし／年1回決算型

世界セレクトティブ株式オープン（年2回決算型） : 為替ヘッジなし／年2回決算型

世界セレクトティブ株式オープン（為替ヘッジあり／年1回決算型） : 為替ヘッジあり／年1回決算型

世界セレクトティブ株式オープン（為替ヘッジあり／年2回決算型） : 為替ヘッジあり／年2回決算型

目論見書のご請求・お申込みは…

丸三証券

〈販売会社〉

商号等 丸三証券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第167号
加入協会 日本証券業協会

設定・運用は…

大和アセットマネジメント
Daiva Asset Management

〈委託会社〉

商号等 大和アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第352号
加入協会 一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

運用は**本邦初**となる

マゼラン・アセット・マネジメント・リミテッドが担当

- マゼラン・アセット・マネジメント・リミテッド（本拠点：オーストラリア）は、2006年に設立された**グローバル株式運用に強みを持つ投資運用会社**です。世界中に顧客基盤を持ち、個人・機関投資家向けに当戦略であるグローバル株式運用ファンドを提供しています。（持株会社であるマゼラン・フィナンシャル・グループは**オーストラリア証券取引所に上場**しています。）
- 運用資産残高7.2兆円のうち、**約8割である5.5兆円を当ファンドと同じ運用戦略で運用**しています（2020年6月末現在）。

マゼラン・アセット・マネジメント・リミテッド* の会社概要

(2020年6月末現在)

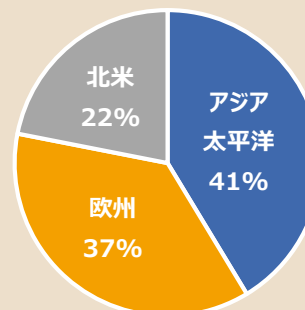
- 設立： 2006年11月
拠点： オーストラリア、ニュージーランドおよび米国
事業内容： 投資運用業、投資助言・代理業
役職員： 131名
代表者： ハーミッシュ・ダグラス（Hamish Douglass）
（Chairman兼CIO兼リード・ポートフォリオ・マネージャー）



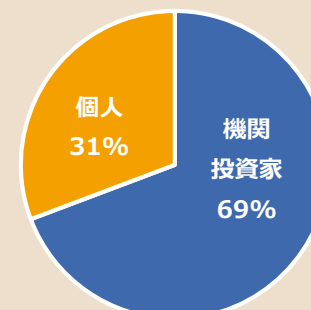
マゼラン社の運用体制

- Chairman兼CIOのハーミッシュ・ダグラスの他、**中心メンバーは創業当初から共に運用に携わっており**、安定した運用体制を確立しています。
- 運用チーム全体を統括するハーミッシュ・ダグラスを除き、**全員がリサーチを担当**し、担当する業界セクターでの定量・定性分析を行ないます。

| 地域別顧客 |



| 顧客属性 |



※四捨五入の関係で数値の合計が100%にならないことがあります。

* Magellan Asset Management Limited trading as MFG Asset Management.、以下マゼラン社といいます。

※運用資産残高は、2020年6月末現在の為替レートを使用。

(出所) マゼラン社、ノーザン・トラスト

マゼラン社の投資哲学と銘柄選定の視点

マゼラン社の強固な投資哲学

持続可能な**競争優位性（エコノミック・モート（経済の堀））**を持つ国際優良企業へ下落リスクを抑制しつつ投資を行なうことは、株式の持つ長期的かつ本源的なリターンを獲得する上で最も有効である。

- 上記の運用哲学に基づき厳選投資します（20～40銘柄）。

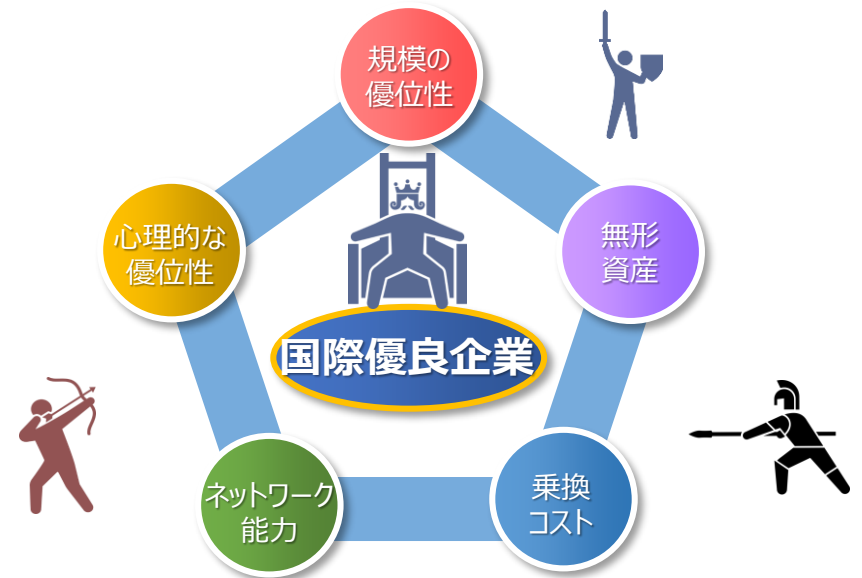
エコノミック・モート（経済の堀）とは、その業界への参入障壁の高さを意味する言葉を表し、具体的には

1. **規模の優位性**
2. **無形資産**（ブランド、特許、知的財産）
3. **乗換コスト**（顧客の囲い込み）
4. **ネットワーク能力**（アクセス、価格競争力、寡占）
5. **心理的な優位性**（安心、親しみ感）

を持つ企業が、今後も国際的な競争力を維持できると考えます。

⇒ 個別銘柄の投資事例については19ページをご覧ください。

| エコノミック・モート（イメージ図）* |



* 上記は国際優良企業が堀で守られているイメージです。

（出所）マゼラン社、ノーザン・トラスト

当ファンドのポイント

1

厳選投資

2

市場下落時の守りに強く、
市場上昇時にしっかり追随*

* 上昇追随率93%（2020年6月末現在）。くわしくは7ページをご覧ください。

3

良好な運用実績

長期投資を前提とし、確信度の高い20~40銘柄に厳選投資します。

- 長期投資の視点から、「①社会変革をもたらす複数の**投資テーマ**」、「②市場に大きな影響を与える**イベントリスク**」を分析します。
- アナリストが**深掘り調査**することで、**持続可能な競争優位性**（エコノミック・モート（経済の堀））を持つ企業の株式を厳選します。

｜銘柄選定およびポートフォリオ構築のイメージ｜



*1 2020年6月末現在 *2 原油や天然資源などの商品市況に影響される銘柄を除外 *3 日本企業を除外

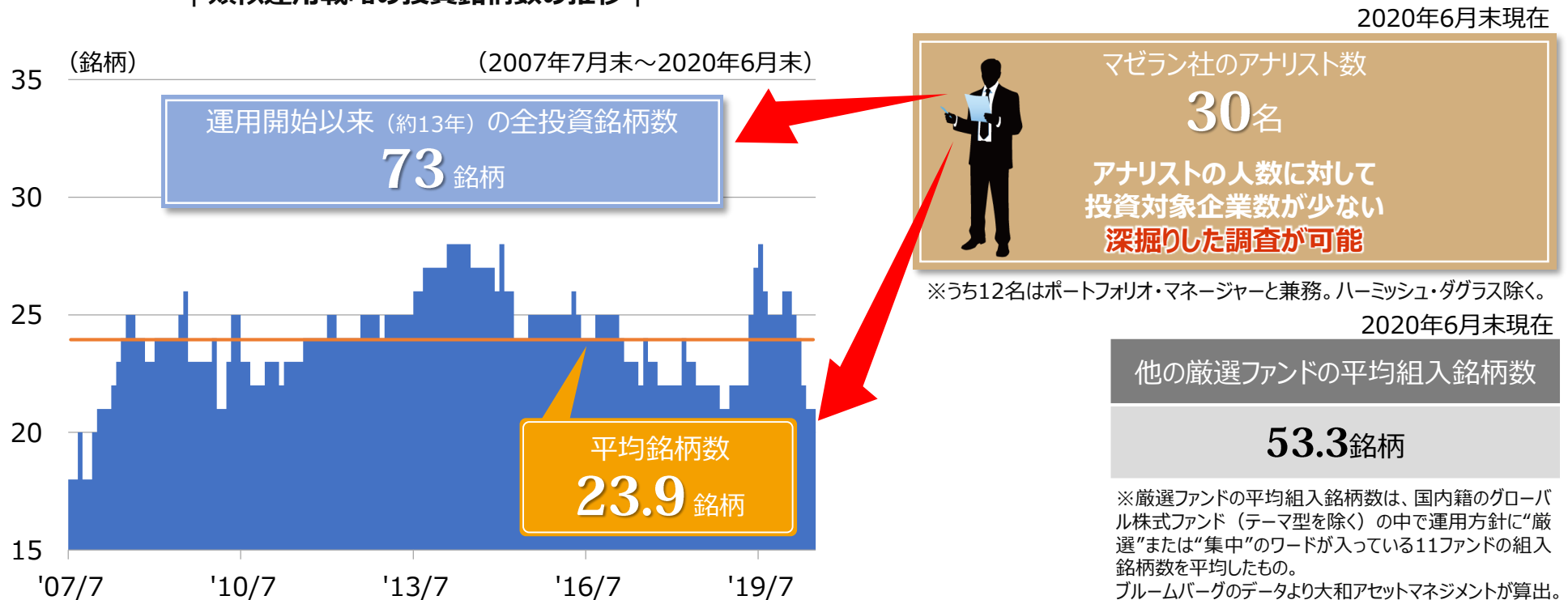
（出所）マゼラン社、ノーザン・トラスト

20~40銘柄に厳選投資

ポイント1
厳選投資

- 当ファンドと同様の戦略で運用されてきた類似運用戦略の過去の投資銘柄数の実績は、18~28銘柄（平均23.9銘柄）と一般的な厳選ファンドと比べても、**銘柄を絞り込んでいる**ことが分かります。この結果、全投資銘柄数は73銘柄にとどまります。
- マゼラン社の**アナリストの人数（30名）と比較して投資銘柄が少ない**ため、投資対象とする企業のより緻密な調査を行なうことが可能です。

| 類似運用戦略の投資銘柄数の推移 |



※類似運用戦略は代表口座のデータを使用しています。※類似運用戦略の投資銘柄数は、同一企業が発行する複数の銘柄を1銘柄としてカウントしており、18ページの当ファンドの組入銘柄数とカウント方法は異なります。※類似運用戦略は、あくまでも参考のために記載したものであり、当ファンドの投資対象ファンドである「アンカーMFGグローバル株式ファンド（為替ヘッジなし／為替ヘッジあり）（適格機関投資家専用）（以下、MFGグローバル株式ファンド）」と同様の運用チーム、投資哲学により運用されておりますが、投資制限、運用資産規模などが異なります。※上記は過去の実績を示したものであり、当ファンドの将来の成果を示唆・保証するものではありません。

トップダウン・アプローチも活用

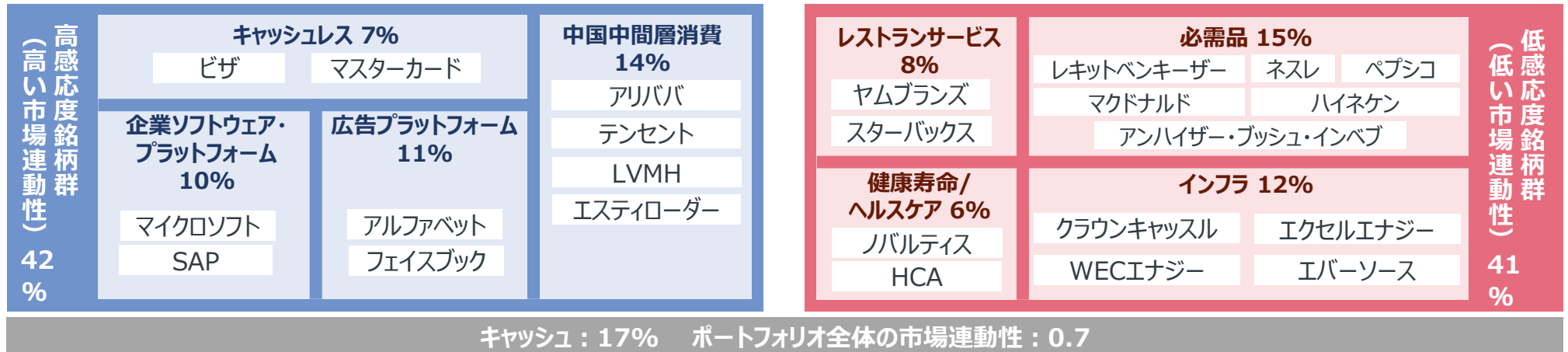
ポイント1
厳選投資

- 通常のボトムアップ調査に加え、社会の変革をもたらすような**中長期の投資テーマに注目**し、そのテーマが市場に織り込まれていく過程で生じる投資機会を捉えます。
- 「投資テーマ」は常に、**最新かつ複数の**投資テーマを設定します。その結果、セクター配分が大きく変わる可能性があります。



2020年3月末現在の類似運用戦略の投資銘柄とその比率

(投資銘柄数：24銘柄)



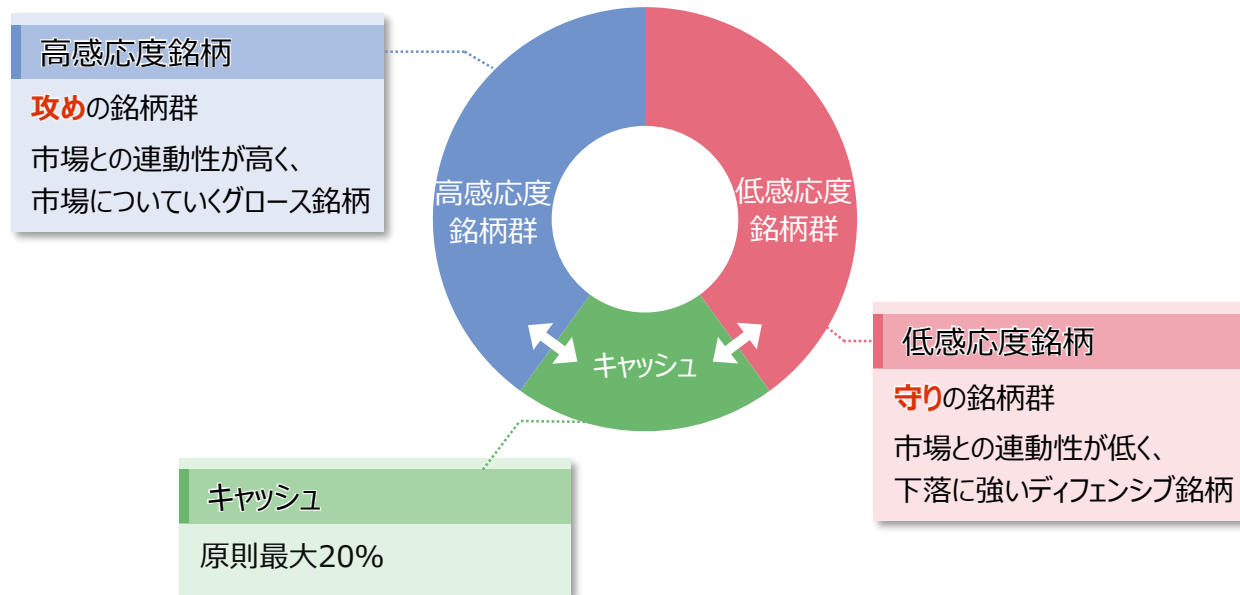
※高感応度銘柄と低感応度銘柄の説明は次ページ参照。※各銘柄の分類についてはマゼラン社が決定しております。※類似運用戦略は代表口座のデータを使用しています。※類似運用戦略の投資銘柄数は、同一企業が発行する複数の銘柄を1銘柄としてカウントしており、18ページの当ファンドの組入銘柄数とカウント方法は異なります。※類似運用戦略は、あくまでも参考のために記載したものであり、当ファンドの投資対象ファンドである「MFGグローバル株式ファンド」と同様の運用チーム、投資哲学により運用されておりますが、投資制限、運用資産規模などが異なります。※上記は過去の実績を示したものであり、当ファンドの将来の成果を示唆・保証するものではありません。
(出所) マゼラン社、ノーザン・トラスト

下落リスクの抑制①

ポイント2
市場下落時の守りに強く、
市場上昇時にしっかり追随

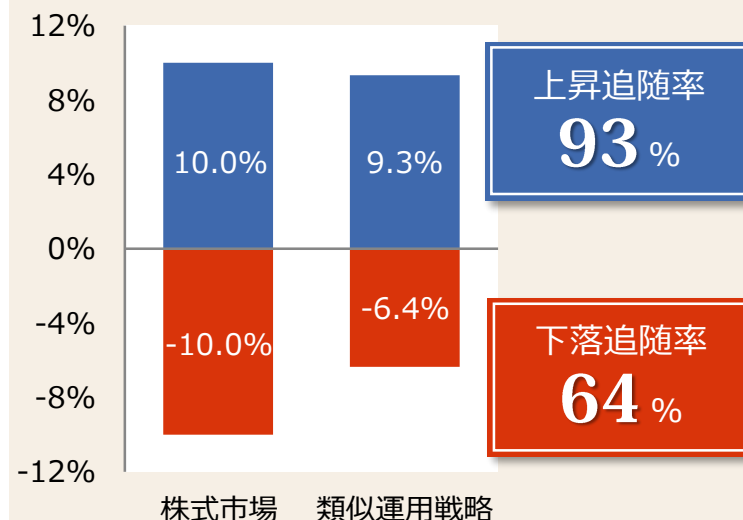
- 当運用戦略では、「下落リスクを抑制」するために、守りの銘柄群やキャッシュを活用し市場との連動性を常に8割程度以下に維持します（8ページご参照）。
- これにより株式市場に「**下落時は市場への追随を抑制（下落追随率64%）**」する一方、「**上昇時は市場へしっかり追随（上昇追随率93%）**」することで超過収益を獲得してきました。

当運用戦略の緻密なリスク管理手法（イメージ図）



市場局面別の連動性比較

株式市場が10%上昇した場合、類似運用戦略は9.3%上昇し、上昇追随率は93%となっています。
一方、株式市場が10%下落した場合、類似運用戦略は6.4%下落し、下落追随率は64%となっています。



※株式市場はMSCIワールド（米ドルベース）を使用。※上昇（下落）追随率とは、株式市場が10%上昇（下落）したときに、類似運用戦略が10%に対してどれだけ上昇（下落）したかを示す値です。※上昇（下落）追随率は、設定来から2020年6月末までの月次データを基に計算しています。※市場局面別の連動性比較はコンポジットデータを使用しています。※類似運用戦略は、あくまでも参考のために記載したものであり、当ファンドの投資対象ファンドである「MFGグローバル株式ファンド」と同様の運用チーム、投資哲学により運用されておりますが、投資制限、運用資産規模などが異なります。※上記は過去の実績を示したものであり、当ファンドの将来の成果を示唆・保証するものではありません。（出所）マゼラン社、ノーザン・トラスト

下落リスクの抑制②

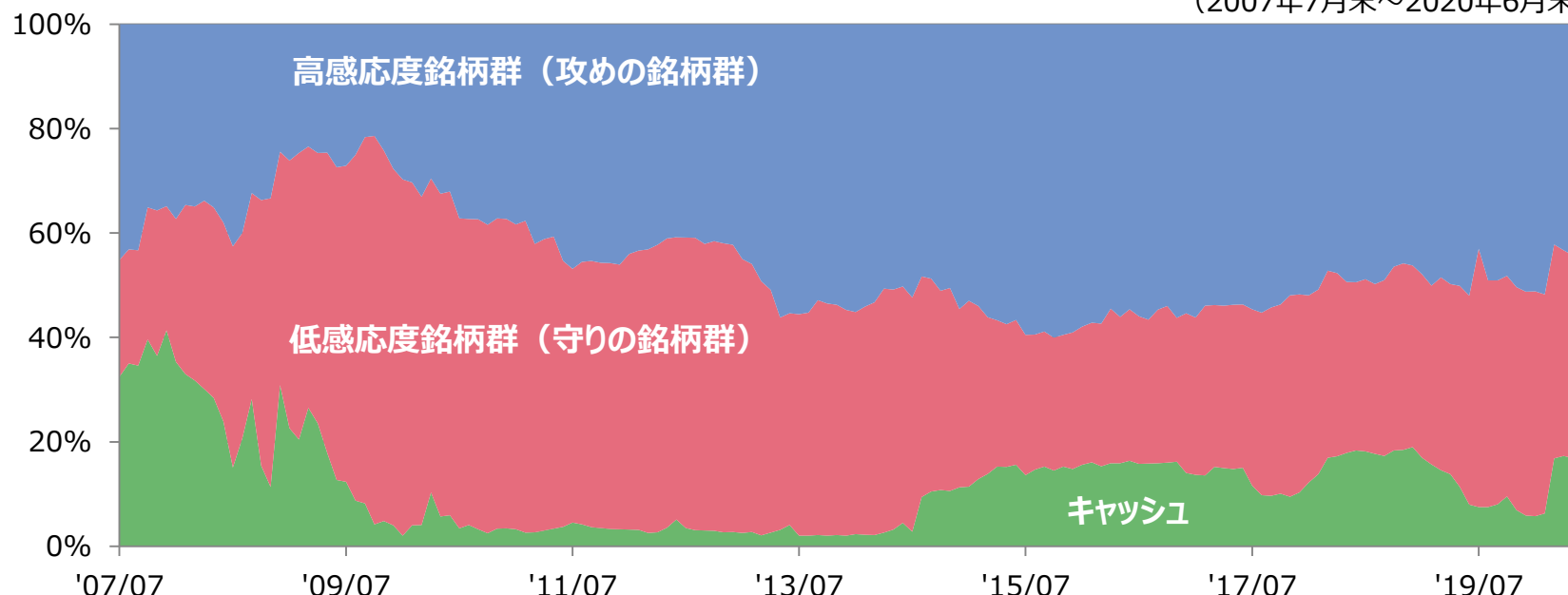
ポイント2
市場下落時の守りに強く、
市場上昇時にしっかり追随

- 市場局面に応じて、3つの銘柄群のウェイトを柔軟に変更し、**市場連動性を8割程度**以下に抑制します。

※「市場連動性」とは、株式市場全体の価格変動に対するファンドの価格変動の大きさを示したものです。

各銘柄群ウェイト推移

(2007年7月末～2020年6月末)



2007年7月

運用開始直後、サブプライム問題の懸念からキャッシュを保有し、慎重な株式の組入れで運用を開始

2009年3月

金融危機から脱却するとの見通しからキャッシュを減らし、株式の組入れを増加

2018年

金利上昇や米中貿易問題への懸念からキャッシュを増加

2020年3月

コロナ・ショックによる先行きの懸念からキャッシュとディフェンシブ銘柄（低感応度銘柄）を増加

※上記は類似運用戦略の代表口座のデータを使用しています。

※類似運用戦略は、あくまでも参考のために記載したものであり、当ファンドの投資対象ファンドである「MFGグローバル株式ファンド」と同様の運用チーム、投資哲学により運用されておりますが、投資制限、運用資産規模などが異なります。※上記は過去の実績を示したものであり、当ファンドの将来の成果を示唆・保証するものではありません。

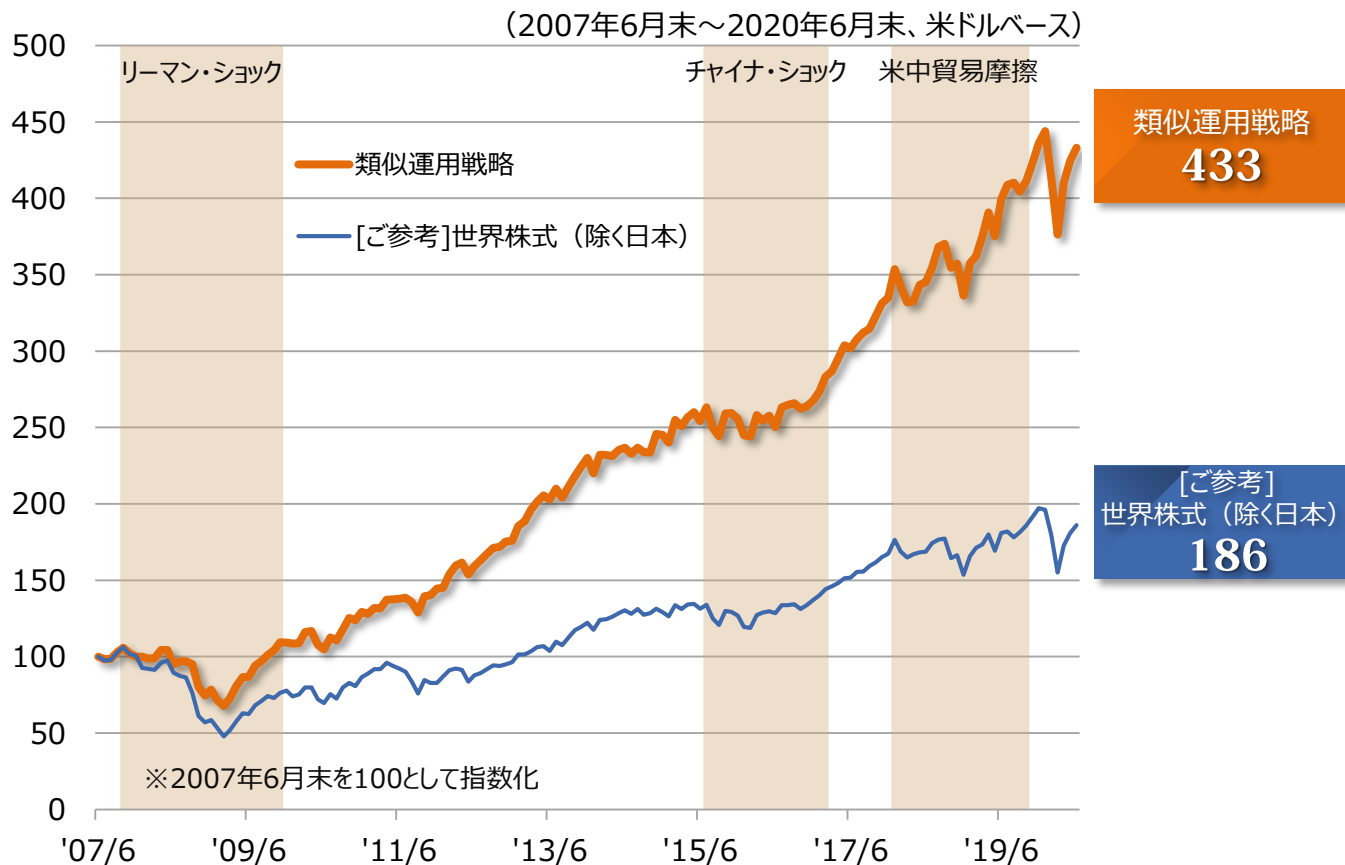
(出所) マゼラン社、ノーザン・トラスト

良好なパフォーマンス① (設定来)

ポイント3
良好な運用実績

- 類似運用戦略には、様々な調整局面を乗り越えてきた実績があります。

| 類似運用戦略のパフォーマンス推移 |



| 期間別リターン (年率換算) の推移 |

(2007年6月末～2020年6月末、米ドルベース)

期間	類似運用戦略 (a)	[ご参考]世界株式 (除く日本) (b)	超過収益 (c=a-b)
2007年*1	0.0%	0.7%	-0.7%
2008年	-21.6%	-42.0%	20.3%
2009年	39.4%	33.1%	6.2%
2010年	18.3%	11.4%	7.0%
2011年	11.9%	-4.6%	16.4%
2012年	21.6%	16.6%	5.0%
2013年	30.8%	26.6%	4.2%
2014年	6.6%	5.8%	0.8%
2015年	4.2%	-1.8%	6.0%
2016年	4.7%	8.0%	-3.3%
2017年	25.2%	22.2%	2.9%
2018年	0.4%	-8.3%	8.7%
2019年	29.7%	28.4%	1.3%
2020年*2	-0.7%	-5.7%	5.0%
過去3年	12.8%	7.0%	5.7%
過去5年	11.2%	7.2%	4.0%
過去10年	15.3%	10.3%	4.9%
設定来	11.9%	4.9%	7.0%

*1 2007年は2007年6月末～2007年12月末までのリターン

*2 2020年は2019年12月末～2020年6月末までのリターン

※類似運用戦略はコンポジットデータを使用しています。※類似運用戦略は、諸費用控除前。※世界株式 (除く日本) はMSCIコクサイ・インデックス (配当込み、源泉税控除後)。

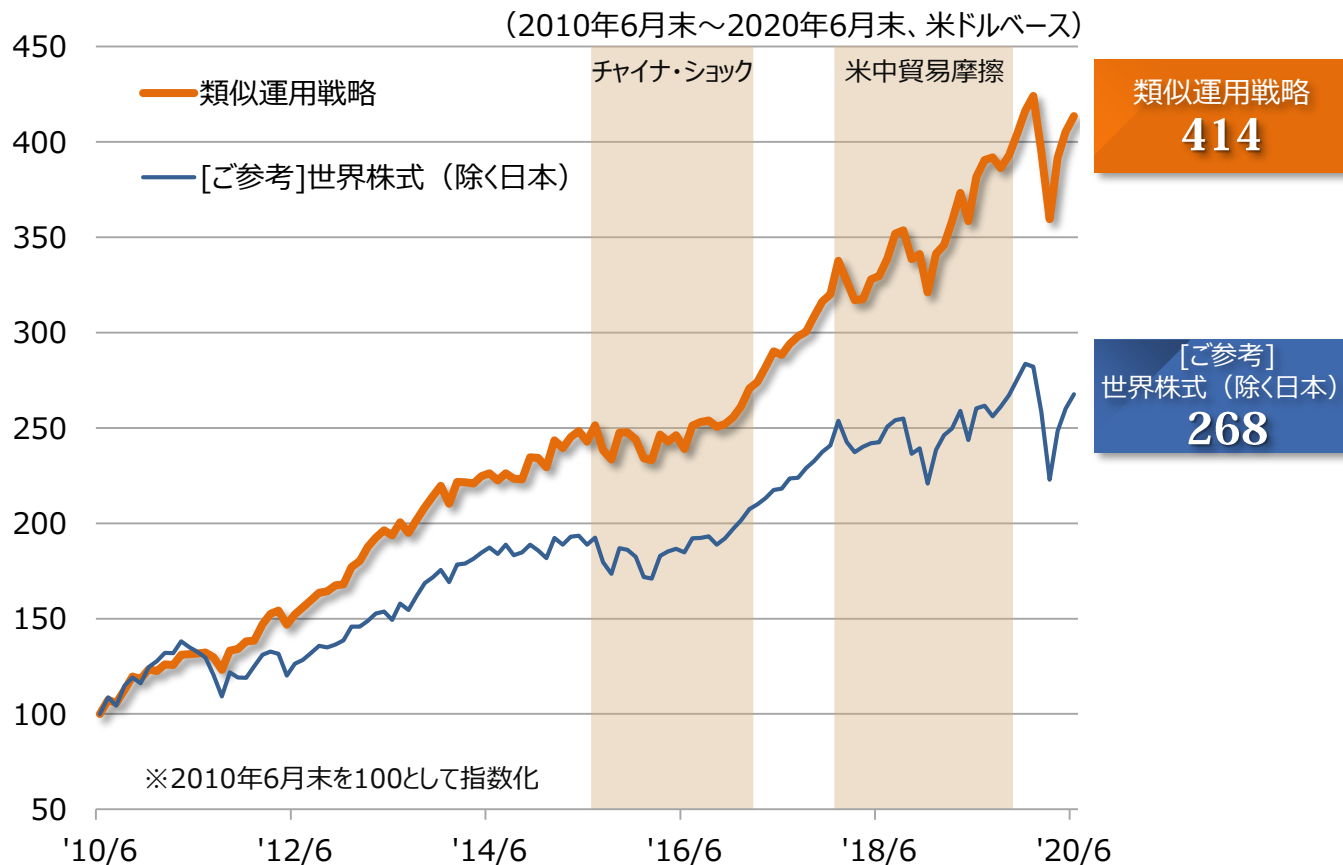
※類似運用戦略は、あくまでも参考のために記載したものであり、当ファンドの投資対象ファンドである「MFGグローバル株式ファンド」と同様の運用チーム、投資哲学により運用されておりますが、投資制限、運用資産規模などが異なります。※上記は過去の実績を示したものであり、当ファンドの将来の成果を示唆・保証するものではありません。 (出所) マゼラン社、ノーザン・トラスト、ブルームバーグ

良好なパフォーマンス② (過去10年)

ポイント3
良好な運用実績

- 類似運用戦略は、**超過収益が大きかった2008年を除いた過去10年間**でも良好なパフォーマンスを実現しています。

| 類似運用戦略のパフォーマンス推移 |



| 期間別リターン (年率換算) の推移 (再掲) |

(2007年6月末～2020年6月末、米ドルベース)

期間	類似運用戦略 (a)	[ご参考]世界株式 (除く日本) (b)	超過収益 (c=a-b)
2007年*1	0.0%	0.7%	-0.7%
2008年	-21.6%	-42.0%	20.3%
2009年	39.4%	33.1%	6.2%
2010年	18.3%	11.4%	7.0%*3
2011年	11.9%	-4.6%	16.4%
2012年	21.6%	16.6%	5.0%
2013年	30.8%	26.6%	4.2%
2014年	6.6%	5.8%	0.8%
2015年	4.2%	-1.8%	6.0%
2016年	4.7%	8.0%	-3.3%
2017年	25.2%	22.2%	2.9%
2018年	0.4%	-8.3%	8.7%
2019年	29.7%	28.4%	1.3%
2020年*2	-0.7%	-5.7%	5.0%
過去3年	12.8%	7.0%	5.7%
過去5年	11.2%	7.2%	4.0%
過去10年	15.3%	10.3%	4.9%
設定来	11.9%	4.9%	7.0%

- *1 2007年は2007年6月末～2007年12月末までのリターン
- *2 2020年は2019年12月末～2020年6月末までのリターン
- *3 左のグラフの対象期間は2010年6月末～2020年6月末です。

※類似運用戦略はコンポジットデータを使用しています。※類似運用戦略は、諸費用控除前。※世界株式 (除く日本) はMSCIコクサイ・インデックス (配当込み、源泉税控除後)。
 ※類似運用戦略は、あくまでも参考のために記載したものであり、当ファンドの投資対象ファンドである「MFGグローバル株式ファンド」と同様の運用チーム、投資哲学により運用されておりますが、投資制限、運用資産規模などが異なります。※上記は過去の実績を示したものであり、当ファンドの将来の成果を示唆・保証するものではありません。 (出所) マゼラン社、ノーザン・トラスト、ブルームバーグ

良好なパフォーマンス③

ポイント3
良好な運用実績

| 期間別リターン（年率換算）の推移 | （再掲）

（2007年6月末～2020年6月末、米ドルベース）

期間	類似運用戦略 (a)	[ご参考]世界株式 (除く日本) (b)	超過収益 (c=a-b)
2007年*1	0.0%	0.7%	-0.7%
2008年	-21.6%	-42.0%	20.3%
2009年	39.4%	33.1%	6.2%
2010年	18.3%	11.4%	7.0%
2011年	11.9%	-4.6%	16.4%
2012年	21.6%	16.6%	5.0%
2013年	30.8%	26.6%	4.2%
2014年	6.6%	5.8%	0.8%
2015年	4.2%	-1.8%	6.0%
2016年	4.7%	8.0%	-3.3%
2017年	25.2%	22.2%	2.9%
2018年	0.4%	-8.3%	8.7%
2019年	29.7%	28.4%	1.3%
2020年*2	-0.7%	-5.7%	5.0%
過去3年	12.8%	7.0%	5.7%
過去5年	11.2%	7.2%	4.0%
過去10年	15.3%	10.3%	4.9%
設定来	11.9%	4.9%	7.0%

*1 2007年は2007年6月末～2007年12月末までのリターン

*2 2020年は2019年12月末～2020年6月末までのリターン

※類似運用戦略はコンポジットデータを使用しています。※類似運用戦略は、諸費用控除前。※世界株式（除く日本）はMSCIコクサイ・インデックス（配当込み、源泉税控除後）。

※類似運用戦略は、あくまでも参考のために記載したものであり、当ファンドの投資対象ファンドである「MFGグローバル株式ファンド」と同様の運用チーム、投資哲学により運用されておりますが、投資制限、運用資産規模などが異なります。※上記は過去の実績を示したものであり、当ファンドの将来の成果を示唆・保証するものではありません。

| 世界株式（除く日本）の騰落率で並べ替えてみると

- ・下落時に世界株式を上回る（＝守りに強い）
- ・上昇時にも世界株式にしっかり追随

	期間	類似運用戦略 (a)	[ご参考]世界株式 (除く日本) (b)	超過収益 (c=a-b)
1	2008年	-21.6%	-42.0%	20.3%
2	2018年	0.4%	-8.3%	8.7%
3	2011年	11.9%	-4.6%	16.4%
4	2015年	4.2%	-1.8%	6.0%
5	2014年	6.6%	5.8%	0.8%
6	2016年	4.7%	8.0%	-3.3%
7	2010年	18.3%	11.4%	7.0%
8	2012年	21.6%	16.6%	5.0%
9	2017年	25.2%	22.2%	2.9%
10	2013年	30.8%	26.6%	4.2%
11	2019年	29.7%	28.4%	1.3%
12	2009年	39.4%	33.1%	6.2%
	2007年*1	0.0%	0.7%	-0.7%
	2020年*2	-0.7%	-5.7%	5.0%

※世界株式の下落率の大きい順に並べ替え（1年に満たない2007年、2020年は除く）。

| 類似運用戦略の騰落率で並べ替えてみると

- ・過去12年（2008年～2019年）でマイナスとなった年は1回しかありません。

	期間	類似運用戦略 (a)	[ご参考]世界株式 (除く日本) (b)	超過収益 (c=a-b)
1	2008年	-21.6%	-42.0%	20.3%
2	2018年	0.4%	-8.3%	8.7%
3	2015年	4.2%	-1.8%	6.0%
4	2016年	4.7%	8.0%	-3.3%
5	2014年	6.6%	5.8%	0.8%
6	2011年	11.9%	-4.6%	16.4%
7	2010年	18.3%	11.4%	7.0%
8	2012年	21.6%	16.6%	5.0%
9	2017年	25.2%	22.2%	2.9%
10	2019年	29.7%	28.4%	1.3%
11	2013年	30.8%	26.6%	4.2%
12	2009年	39.4%	33.1%	6.2%
	2007年*1	0.0%	0.7%	-0.7%
	2020年*2	-0.7%	-5.7%	5.0%

※類似運用戦略の下落率の大きい順に並べ替え（1年に満たない2007年、2020年は除く）。

市場下落時の守りに強く、市場上昇時にしっかり追随することが

良好なパフォーマンスに繋がりました。

（出所）マゼラン社、ノーザン・トラスト、ブルームバーグ

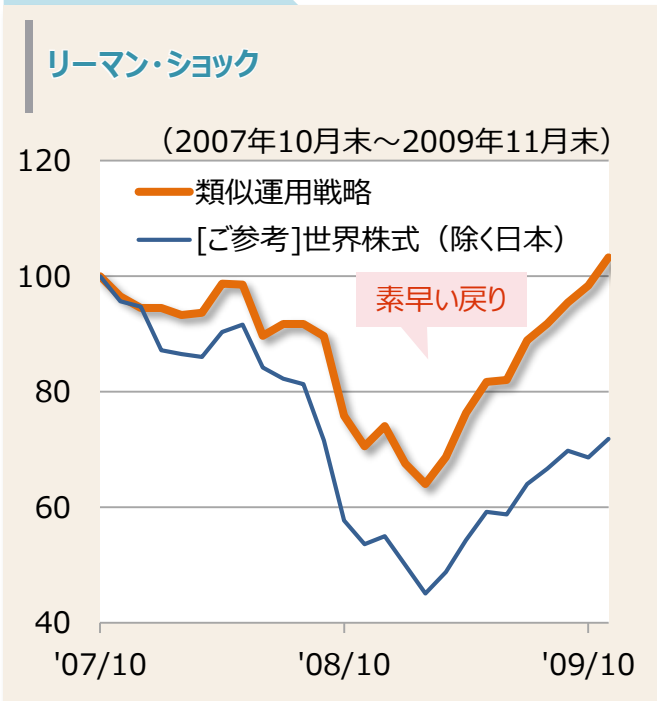
下落リスク抑制事例

ポイント3
良好な運用実績

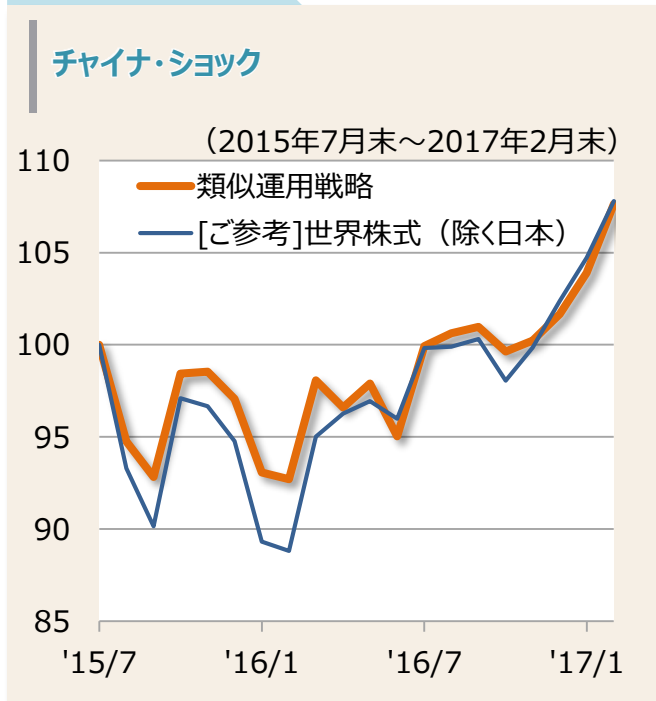
- 類似運用戦略は、これまでリーマン・ショックなどの調整局面を乗り越え、**超過収益を獲得**してきました。
- 過去の事例から、**下落リスクの抑制ができて**いるということだけでなく、リーマン・ショックや米中貿易摩擦時においては、その後**素早い戻り**を見せていることがお分かりいただけます。
- 今後、不透明な投資環境が続くなかで株式市場が調整する局面も想定されます。このような局面では、下落リスクを抑制することが期待されます。

| 主な市場調整局面でのパフォーマンス実績（米ドルベース） |

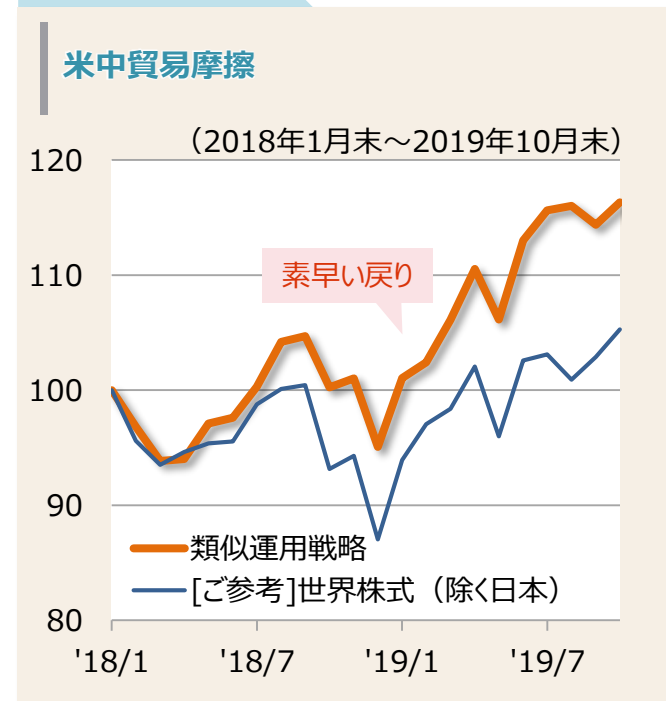
下落リスク抑制事例①



下落リスク抑制事例②



下落リスク抑制事例③



※各グラフの起点を100として指数化。※類似運用戦略はコンポジットデータを使用しています。

※類似運用戦略は、諸費用控除前。※世界株式（除く日本）はMSCIコクサイ・インデックス（配当込み、源泉税控除後）。

※類似運用戦略は、あくまでも参考のために記載したものであり、当ファンドの投資対象ファンドである「MFGグローバル株式ファンド」と同様の運用チーム、投資哲学により運用されておりますが、投資制限、運用資産規模などが異なります。※上記は過去の実績を示したものであり、当ファンドの将来の成果を示唆・保証するものではありません。（出所）マゼラン社、ノーザン・トラスト、ブルームバーグ

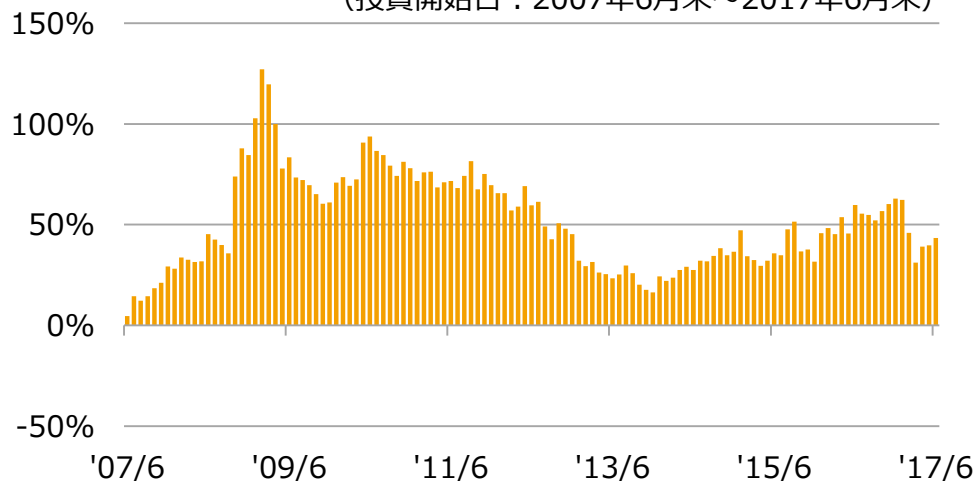
類似運用戦略の運用実績 (米ドルベース)

ポイント3
良好な運用実績

- 3年間、5年間という中期で投資した場合、投資時期に関わらず**プラスのリターンを確保した**実績があります。

| 3年間投資した場合 |

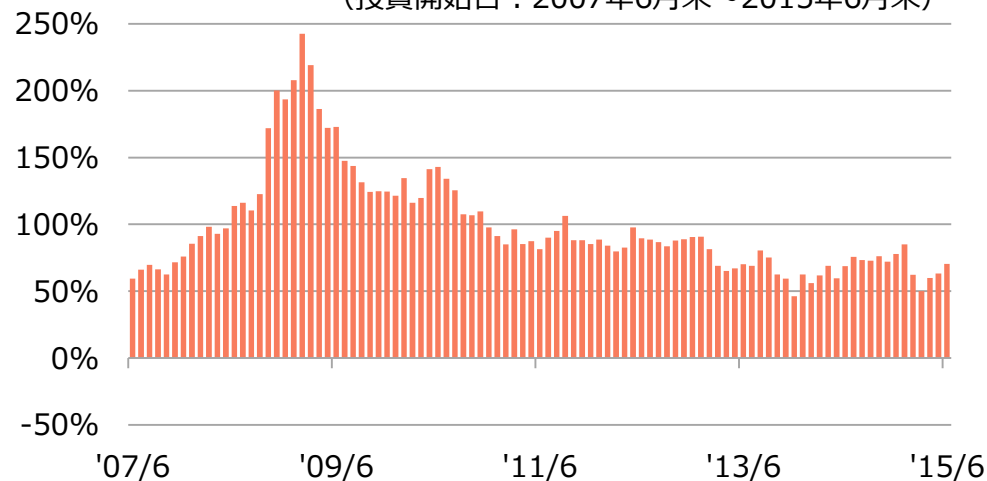
(投資開始日：2007年6月末～2017年6月末)



	期間の数	リターンがプラスになった割合	リターンがマイナスになった割合	最大リターン	最小リターン	平均リターン
類似運用戦略	121	100%	0%	127%	5%	51%
[ご参考] 世界株式 (除く日本)	121	89%	11%	90%	-30%	29%

| 5年間投資した場合 |

(投資開始日：2007年6月末～2015年6月末)



	期間の数	リターンがプラスになった割合	リターンがマイナスになった割合	最大リターン	最小リターン	平均リターン
類似運用戦略	97	100%	0%	243%	46%	99%
[ご参考] 世界株式 (除く日本)	97	93%	7%	159%	-12%	54%

※類似運用戦略はコンポジットデータを使用しています。※類似運用戦略は、諸費用控除前。※世界株式 (除く日本) はMSCIコクサイ・インデックス (配当込み、源泉税控除後)。

※例えば、3年間投資した場合、類似運用戦略の'07/6の投資リターンは、2007年6月末から2010年6月末まで投資したと仮定したリターン。

※類似運用戦略は、あくまでも参考のために記載したものであり、当ファンドの投資対象ファンドである「MFGグローバル株式ファンド」と同様の運用チーム、投資哲学により運用されておりますが、投資制限、運用資産規模などが異なります。※上記は過去の実績を示したものであり、当ファンドの将来の成果を示唆・保証するものではありません。 (出所) マゼラン社、ノーザン・トラスト、ブルームバーグ

〈ご参考〉競争力の高い実績 (eVestmentによる競合他社比較)

eVestmentレポート作成日：2020年6月8日
 比較対象ユニバース：All Global Equity (小型株も含む)
 比較時点：2020年3月末

※それぞれのファンドは運用方針などの商品性が異なるため、下記はあくまでも参考であることにご注意ください。

2007年7月～2020年3月 (類似運用戦略設定来)：対象ファンド数 544ファンド

	超過リターン		トータル・リターン (a)		リスクフリーレート (b)		標準偏差 (c)		シャープ・レシオ (d = (a-b) / c)	
類似運用戦略	7.7%	上位2%	11.0%	上位2%	0.8%		13.3%	上位7%	0.76	上位1%

過去10年：対象ファンド数 772ファンド

	超過リターン		トータル・リターン		リスクフリーレート		標準偏差		シャープ・レシオ	
類似運用戦略	5.9%	上位4%	12.5%	上位4%	0.6%		11.3%	上位5%	1.05	上位1%

過去5年：対象ファンド数 1,259ファンド

	超過リターン		トータル・リターン		リスクフリーレート		標準偏差		シャープ・レシオ	
類似運用戦略	5.2%	上位7%	8.5%	上位7%	1.1%		11.4%	上位7%	0.64	上位4%

過去3年：対象ファンド数 1,437ファンド

	超過リターン		トータル・リターン		リスクフリーレート		標準偏差		シャープ・レシオ	
類似運用戦略	7.6%	上位7%	9.5%	上位7%	1.7%		12.3%	上位7%	0.62	上位4%

過去1年：対象ファンド数 1,553ファンド

	超過リターン		トータル・リターン		リスクフリーレート		標準偏差		シャープ・レシオ	
類似運用戦略	10.7%	上位5%	0.3%	上位5%	2.1%		16.0%	上位9%	-0.12	上位6%

eVestmentは、米国の評価機関です。各運用会社から申請された投資スタイルについてその内容を分析・評価し、ファンドが属する同一戦略カテゴリーにおけるランク付けを行っています。

※類似運用戦略はコンジットデータを使用しています。※類似運用戦略は、諸費用控除前。※2020年3月末時点。類似運用戦略のeVestment登録名は Magellan Global Equity。超過リターンは、類似運用戦略の年率リターンとMSCIワールドの年率リターンの差。標準偏差は、月次リターンの標準偏差を年率化したもの。シャープレシオは、トータル・リターンからリスクフリーレート (T-Bill3カ月) の移動平均を引いたものを標準偏差で除したもの。※類似運用戦略は、あくまでも参考のために記載したものであり、当ファンドの投資対象ファンドである「MFGグローバル株式ファンド」と同様の運用チーム、投資哲学により運用されており、投資制限、運用資産規模などが異なります。※上記は過去の実績を示したものであり、当ファンドの将来の成果を示唆・保証するものではありません。

(出所) eVestment

世界セレクティブ株式オープン[®]の運用状況

※為替ヘッジなし

基準価額・純資産の推移



基準日：2020年6月30日現在

基準価額	10,590円
純資産総額	78億円

期間別騰落率

期間	ファンド	参考指数
1か月間	+1.7%	+1.9%
3か月間	+10.7%	+16.5%
6か月間	-4.9%	-8.6%
1年間	+5.4%	+2.1%
年初来	-4.9%	-8.6%
設定来	+5.9%	-1.1%

分配の推移（1万口当たり、税引前）

決算期（年／月）	分配金
第1期（'20/4）	0円
設定来分配金合計額	0円

※参考指数はMSCIコクサイ指数（税引後配当込み、円換算）です。※MSCIコクサイ指数（税引後配当込み、円換算）は当ファンドのベンチマークではありませんが、参考のため掲載しています。※グラフ上の参考指数はグラフの起点時の基準価額に基づき指数化しています。※「分配金再投資基準価額」は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用（信託報酬）は控除しています（「ファンドの費用」をご覧ください）。※MSCIコクサイ指数（税引後配当込み、円換算）は、MSCI Inc.の承諾を得て、MSCIコクサイ指数（税引後配当込み、米ドルベース）をもとに、大和アセットマネジメントが計算したものです。※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間とし、当該ファンドの「分配金再投資基準価額」を用いた騰落率を表しています。※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。※上記は過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

世界セレクトティブ株式オープン（年2回決算型）の運用状況

※為替ヘッジなし

基準価額・純資産の推移



基準日：2020年6月30日現在

基準価額	9,192円
純資産総額	42億円

期間別騰落率

期間	ファンド	参考指数
1カ月間	+1.1%	+1.9%
3カ月間	+10.0%	+16.5%
6カ月間	-	-
設定来	-8.1%	-7.0%

分配の推移（1万口当たり、税引前）

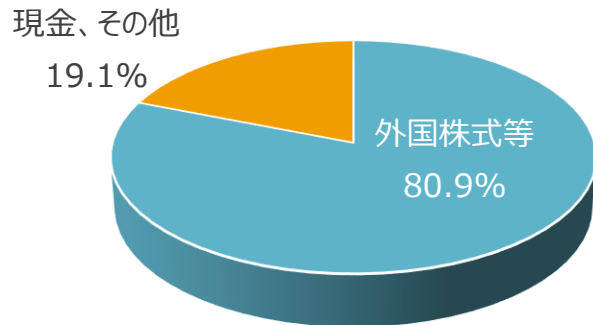
決算期（年／月）	分配金
第1期（'20/4）	0円
第2期（'20/10）	0円
第3期（'21/4）	0円
設定来分配金合計額	0円

※参考指数はMSCIコクサイ指数（税引後配当込み、円換算）です。※MSCIコクサイ指数（税引後配当込み、円換算）は当ファンドのベンチマークではありませんが、参考のため掲載しています。※グラフ上の参考指数はグラフの起点時の基準価額に基づき指数化しています。※「分配金再投資基準価額」は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用（信託報酬）は控除しています（「ファンドの費用」をご覧ください）。※MSCIコクサイ指数（税引後配当込み、円換算）は、MSCI Inc.の承諾を得て、MSCIコクサイ指数（税引後配当込み、米ドルベース）をもとに、大和アセットマネジメントが計算したものです。※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間とし、当該ファンドの「分配金再投資基準価額」を用いた騰落率を表しています。※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。※上記は過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

アンカーMFGグローバル株式マザーファンドの資産状況① (2020年6月末現在)

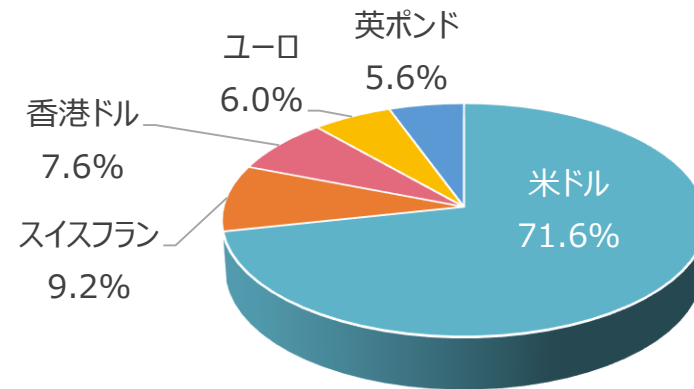
資産別構成

合計：100.0%



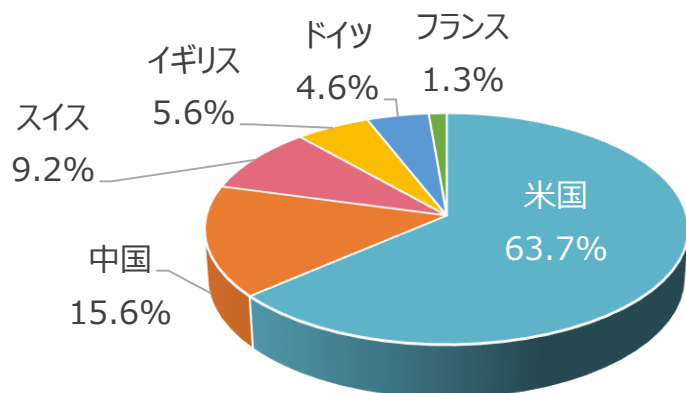
株式等 通貨別構成

合計：100.0%



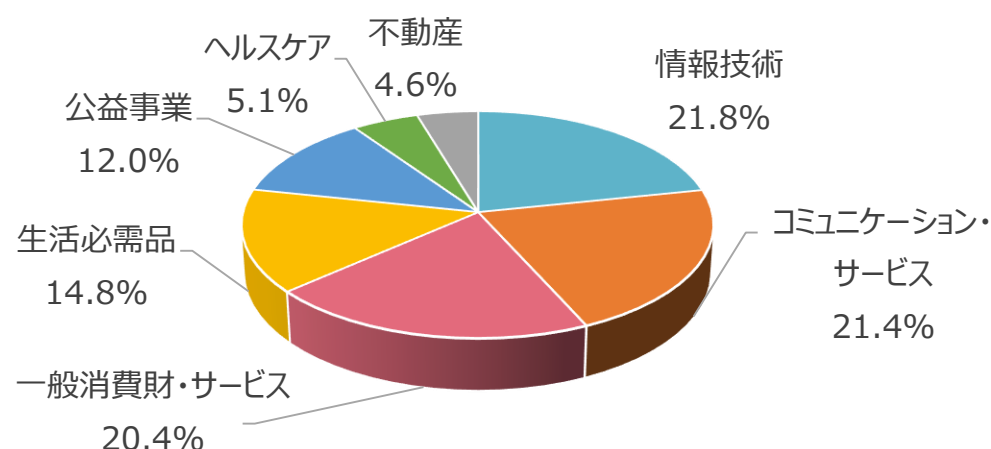
株式等 国・地域別構成

合計：100.0%



株式等 業種別構成

合計：100.0%



※ノーザン・トラスト・グローバル・インベストメンツ株式会社の提供するデータを基に大和アセットマネジメントが作成したものです。※資産別構成はマザーファンドの純資産総額に対するものです。※通貨別構成、国・地域別構成、業種別構成は株式等のポートフォリオに対するものです。※比率の合計が四捨五入の関係で一致しない場合があります。※業種名は、原則としてS&PとMSCI Inc.が共同で作成した世界産業分類基準（GICS）の産業分類によるものです。※上記は過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

アンカーMFGグローバル株式マザーファンドの資産状況② (2020年6月末現在)

組入上位10銘柄

合計：51.1%

(組入銘柄数：22銘柄)

	銘柄名	国・地域名	高感応度銘柄・ 低感応度銘柄	業種名	銘柄概要	比率
1	マイクロソフト	米国	高感応度銘柄	情報技術	世界最大のソフトウェア企業。ウィンドウズやオフィスは世界中で圧倒的シェアを持ち、SNSやクラウドビジネスも急成長中。	7.7%
2	アリババ・グループ・ホールディング	中国	高感応度銘柄	一般消費財・サービス	世界最大級の流通総額を持つ中国ネット通販最大手。「Alibaba.com」で企業間電子商取引事業を展開するほか、オンラインショッピングサイト「タオバオ」などを運営。	6.5%
3	テンセント・ホールディングス	中国	高感応度銘柄	コミュニケーション・サービス	世界最大級のオンラインゲーム事業、中国で最大規模のSNSアプリ「ウィーチャット」を運営するネットサービス大手。モバイル決済やクラウド事業にも注力。	6.1%
4	フェイスブック	米国	高感応度銘柄	コミュニケーション・サービス	世界最大のSNSプラットフォーム企業。インスタグラムやメッセージャーなど20億人超の利用者を持ち、広告収入を拡大中。	5.4%
5	アルファベット	米国	高感応度銘柄	コミュニケーション・サービス	世界の検索エンジンや携帯電話向け基本ソフト(OS)で圧倒的シェア。検索、地図、YouTubeなどのサービスで10億人超が利用。	5.1%
6	レキットベンキーザー・グループ	イギリス	低感応度銘柄	生活必需品	グローバルに事業を展開する家庭用品・医薬品メーカー。ニキビ治療薬のクレアラシル、薬用せっけんのミューズなど、世界的なブランドを複数持つ。	4.5%
7	スターバックス	米国	低感応度銘柄	一般消費財・サービス	強力なブランド力を持つ世界最大のコーヒー・チェーン企業。成長に重点を置き、食料品部門の拡大や中国市場での成長に注力。	4.2%
8	ノバルティス	スイス	低感応度銘柄	ヘルスケア	世界的大手の製薬会社。革新的な新薬、アイケア（眼科用医療機器、コンタクトレンズなど）、安価なジェネリック医薬品など、幅広い分野の製品を提供。	4.1%
9	クラウン・キャッスル・インターナショナル	米国	低感応度銘柄	不動産	全米各地で無線通信用の基地局タワーを運営する不動産投資信託（REIT）。大手携帯電話会社などと設備の長期リース契約を結び、安定的な収益を獲得している。	3.8%
10	SAP	ドイツ	高感応度銘柄	情報技術	企業向けソフトウェアの世界的企業。世界企業ランキング上位2,000社の大半を含め、世界中の企業が同社のソフトウェアを利用。	3.7%

※ノーザン・トラスト・グローバル・インベストメンツ株式会社の提供するデータを基に大和アセットマネジメントが作成したものです。※比率はマザーファンドの純資産総額に対するものです。※比率の合計が四捨五入の関係で一致しない場合があります。※業種名は、原則としてS&PとMSCI Inc.が共同で作成した世界産業分類基準（GICS）の産業分類によるものです。※当資料掲載の企業はあくまでも参考のために掲載したものであり、個別企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに組入れることを示唆・保証するものではありません。※上記は過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

(出所) マゼラン社、ノーザン・トラスト

〈ご参考〉 類似運用戦略の投資事例

マイクロソフト (投資開始時期：2013年1月)

業種名：情報技術 国名：米国

マイクロソフトは、ソフトウェアおよびクラウドサービスのトップカンパニーです。

投資のポイント

WindowsやOfficeで築いた圧倒的な顧客基盤をベースに、ソフトウェアのライセンス販売からMicrosoft365やクラウドサービスなどの利用に応じて課金するサブスクリプションビジネスへの転換を進めて、**収益を安定させながらも成長中**。また世界的な在宅勤務の広がりを受けて、チームス（テレビ会議システムなど）は利用者が急増している。

エコミック・モート（経済の堀）の視点

- 1 規模の優位性：世界シェア第1位
- 2 無形資産：高いブランド力
- 3 乗換コスト：人的・資本的な移行コスト
- 4 ネットワーク能力：高い共有性
- 5 心理的な優位性：使い慣れているWindows

株価とEPSの推移



株価：2013年1月初～2020年6月末

EPS：2013年～2021年（2020年以降は2020年7月現在のブルームバーグ予想）

※上記の銘柄はあくまでも参考のために掲載したものであり、個別銘柄の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組入れることを保証するものではありません。

※上記は過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

スターバックス (投資開始時期：2017年2月)

業種名：一般消費財・サービス 国名：米国

スターバックスは世界の約80カ国で約3万店舗を展開している世界最大のコーヒーチェーンです。

投資のポイント

抜群のブランド力を活かして、世界中で**コーヒー文化浸透の先導役**となり、愛着を持って習慣的にコーヒーを購入する顧客を着実に増やしている。上海など人口が増大する**新興国の大都市圏での店舗網の拡大**が続き、今後も高い成長が期待できる。

エコミック・モート（経済の堀）の視点

- 1 規模の優位性：世界最大のコーヒーチェーン
- 2 無形資産：世界中に浸透する高いブランド力
- 3 乗換コスト：ブランドに愛着を持つ顧客による購入の習慣化
- 4 ネットワーク能力：世界的な店舗展開。近年は中国に注力
- 5 心理的な優位性：ブランドへの高い信頼、安心感

株価とEPSの推移



株価：2013年1月初～2020年6月末

EPS：2013年～2021年（2020年以降は2020年7月現在のブルームバーグ予想）

（出所）マゼラン社、ノーザン・トラスト、ブルームバーグ

ファンドの特色



日本を除く世界の金融商品取引所上場株式等に投資します。

(注)「株式等」…DR(預託証券)およびリート(不動産投資信託証券)を含みます。



株式等の運用は、マゼラン・アセット・マネジメント・リミテッドが担当します。

マゼラン・アセット・マネジメント・リミテッド(2006年設立、本拠地:オーストラリア)は、マゼラン・フィナンシャル・グループ(MFG)の投資運用部門です。国際優良企業への投資によるグローバル株式運用に強みを持ち、個人・機関投資家向けにグローバルな投資ファンドを提供しています。

為替ヘッジあり/年1回決算型 | 為替ヘッジあり/年2回決算型は、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。

- ◆ただし、為替ヘッジを行なっても、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。また、為替ヘッジの手段がない、あるいは、ヘッジコストが過大と判断される際には、一部の通貨について、為替ヘッジを行なわない場合があります。
- ◆為替ヘッジを行なう際、日本円の金利が組入資産の通貨の金利より低いときには、金利差相当分がコストとなり、需給要因等によっては、さらにコストが拡大することもあります。

当初設定日直後、大量の追加設定または解約が発生したとき、市況の急激な変化が予想されるとき、償還の準備に入ったとき等ならびに信託財産の規模によっては、上記の運用が行なわれないことがあります。

《分配について》

年1回決算を行なうタイプ

世界セレクトティブ株式オープン ※為替ヘッジなし

世界セレクトティブ株式オープン(為替ヘッジあり/年1回決算型)

毎年4月25日(休業日の場合、翌営業日)に決算を行ない、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。

(注)世界セレクトティブ株式オープン(為替ヘッジあり/年1回決算型)の第1計算期間は、2021年4月25日(休業日の場合、翌営業日)までとします。

分配方針

- ◆ 分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます)等とします。
- ◆ 原則として、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。

年2回決算を行なうタイプ

世界セレクトティブ株式オープン(年2回決算型) ※為替ヘッジなし

世界セレクトティブ株式オープン(為替ヘッジあり/年2回決算型)

毎年4月25日および10月25日(休業日の場合、翌営業日)に決算を行ない、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。

(注)世界セレクトティブ株式オープン(為替ヘッジあり/年2回決算型)の第1計算期間は、2021年4月25日(休業日の場合、翌営業日)までとします。

分配方針

- ◆ 分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます)等とします。
- ◆ 原則として、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。各計算期末における収益分配前の基準価額(1万口当たり)が10,000円超の場合、10,000円を超える額を目処に分配金額を決定します。なお、計算期末に向けて基準価額が大きく上昇した場合など基準価額の動向等によっては、実際の分配額がこれと異なる場合があります。

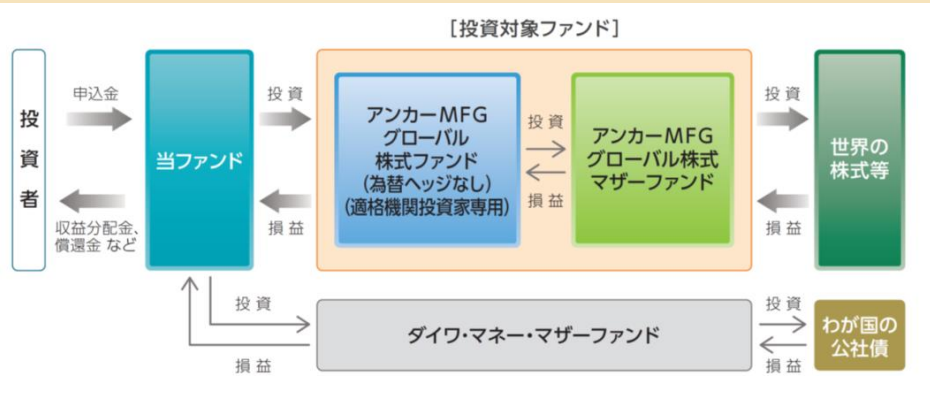
※分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

ファンドの仕組み

為替ヘッジなし／年1回決算型 為替ヘッジなし／年2回決算型

為替ヘッジなし

- 当ファンドは、以下の2本の投資信託証券に投資する「ファンド・オブ・ファンズ」です。
- 投資対象とする投資信託証券への投資を通じて、世界の株式等に投資します。

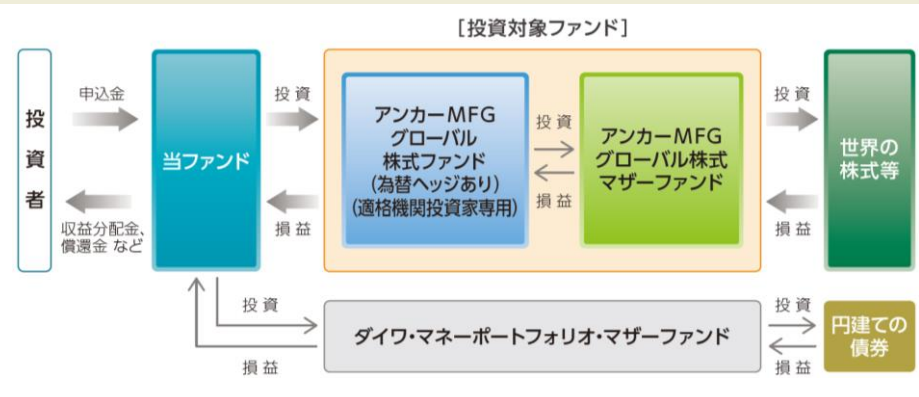


- ※投資対象ファンドについて、くわしくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資対象ファンドの概要」をご参照ください。
- ※通常の状態では「アンカー-MFGグローバル株式ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）」への投資割合を、高位に維持することを基本とします。
- ※「アンカー-MFGグローバル株式ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）」において、為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。

為替ヘッジあり／年1回決算型 為替ヘッジあり／年2回決算型

為替ヘッジあり

- 当ファンドは、以下の2本の投資信託証券に投資する「ファンド・オブ・ファンズ」です。
- 投資対象とする投資信託証券への投資を通じて、世界の株式等に投資します。



- ※投資対象ファンドについて、くわしくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資対象ファンドの概要」をご参照ください。
- ※通常の状態では「アンカー-MFGグローバル株式ファンド（為替ヘッジあり）（適格機関投資家専用）」への投資割合を、高位に維持することを基本とします。
- ※「アンカー-MFGグローバル株式ファンド（為替ヘッジあり）（適格機関投資家専用）」において、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。

当初設定日直後、大量の追加設定または解約が発生したとき、市況の急激な変化が予想されるとき、償還の準備に入ったとき等ならびに信託財産の規模によっては、上記の運用が行なわれないことがあります。

為替ヘッジなし

為替ヘッジあり

について

為替ヘッジなし

為替ヘッジなし／年1回決算型 | 為替ヘッジなし／年2回決算型

為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。

※基準価額は、為替変動の影響を直接受けます。

為替ヘッジあり

為替ヘッジあり／年1回決算型 | 為替ヘッジあり／年2回決算型

為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。

※為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。

※為替ヘッジを行なう際、日本円の金利が組入資産の通貨の金利より低いときには、金利差相当分がコストとなり、需給要因等によっては、さらにコストが拡大することもあります。

対円為替レートの推移 |



対円為替ヘッジコスト／プレミアム（試算）の推移 |



※各通貨の短期金利については、米ドル:1カ月LIBOR（ロンドン銀行間取引金利）、日本円:1カ月LIBORのデータを使用しています。※上記の為替ヘッジコスト／プレミアムは、短期金利差を用いた簡便な方法により試算したもので、実際の値とは異なります。※為替ヘッジコスト／プレミアムは、金利差だけではなく当該通貨に対する市場参加者の期待を反映した需給などの影響を受けて変動します。投資環境、金利環境の変化によって為替ヘッジプレミアムがコストになる場合もあります。※上記は過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

(出所) ブルームバーグ

投資リスク

基準価額の変動要因

- ◆ 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。
- ◆ 投資信託は預貯金とは異なります。

主な変動要因	※基準価額の変動要因は、下記に限定されるものではありません。
価格変動リスク・信用リスク	組入資産の価格が下落した場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。
株価の変動	株価は、政治・経済情勢、発行企業の業績、市場の需給等を反映して変動します。発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることもあります。 当ファンドは、一銘柄当たりの組入比率が高くなる場合があり、より多数の銘柄に分散投資した場合に比べて基準価額の変動が大きくなる可能性があります。また、当ファンドは、新興国の株式にも投資することがあります。新興国の証券市場は、先進国の証券市場に比べ、一般に市場規模や取引量が小さく、流動性が低いことにより本来想定される投資価値とは乖離した価格水準で取引される場合もあるなど、価格の変動性が大きくなる傾向が考えられます。
リートの価格変動	リートの価格は、不動産市況の変動、リートの収益や財務内容の変動、リートに関する法制度の変更等の影響を受けます。
為替変動リスク	外貨建資産については、資産自体の価格変動のほか、当該外貨の円に対する為替レートの変動の影響を受けます。 組入外貨建資産について、当該外貨の為替レートが円高方向に進んだ場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。特に、新興国の為替レートは短期間に大幅に変動することがあり、先進国と比較して、相対的に高い為替変動リスクがあります。 為替ヘッジあり／年1回決算型 為替ヘッジあり／年2回決算型は、為替ヘッジを行ないませんが、影響をすべて排除できるわけではありません。また、一部の通貨について、為替ヘッジを行なわない場合があるため、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。為替ヘッジを行なう際、日本円の金利が組入資産の通貨の金利より低いときには、金利差相当分がコストとなり、需給要因等によっては、さらにコストが拡大することもあります。
カントリー・リスク	投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化等により市場に混乱が生じた場合、または取引に対して新たな規制が設けられた場合には、基準価額が予想外に下落したり、方針に沿った運用が困難となることがあります。新興国への投資には、先進国と比べて大きなカントリー・リスクが伴います。
その他	解約資金を手当てするため組入証券を売却する際、市場規模や市場動向によっては市場実勢を押下げ、当初期待される価格で売却できないこともあります。この場合、基準価額が下落する要因となります。

その他の留意点

当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。

リスクの管理体制

委託会社では、取締役会が決定した運用リスク管理に関する基本方針に基づき、運用本部から独立した部署および会議体が直接的または間接的に運用本部へのモニタリング・監視を通し、運用リスクの管理を行ないます。

ファンドの費用

※消費税率10%の場合 ※くわしくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

お客さまが直接的に負担する費用

	料率等	費用の内容
購入時手数料	販売会社が別に定める率 <上限> 3.3% (税込)	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。
信託財産留保額	ありません。	—

お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

	料率等	費用の内容		
運用管理費用 (信託報酬)	年率1.1275% (税込)	<table border="1"> <tr> <td> 為替ヘッジなし／年1回決算型 為替ヘッジあり／年1回決算型 運用管理費用の総額は、日々の信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。運用管理費用は、毎日計上され、毎計算期間の最初の6か月終了日（休業日の場合、翌営業日）および毎計算期末または信託終了のときに信託財産から支払われます。 </td> <td> 為替ヘッジなし／年2回決算型 為替ヘッジあり／年2回決算型 運用管理費用の総額は、日々の信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。運用管理費用は、毎日計上され、毎計算期末または信託終了のときに信託財産から支払われます。 </td> </tr> </table>	為替ヘッジなし／年1回決算型 為替ヘッジあり／年1回決算型 運用管理費用の総額は、日々の信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。運用管理費用は、毎日計上され、毎計算期間の最初の6か月終了日（休業日の場合、翌営業日）および毎計算期末または信託終了のときに信託財産から支払われます。	為替ヘッジなし／年2回決算型 為替ヘッジあり／年2回決算型 運用管理費用の総額は、日々の信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。運用管理費用は、毎日計上され、毎計算期末または信託終了のときに信託財産から支払われます。
為替ヘッジなし／年1回決算型 為替ヘッジあり／年1回決算型 運用管理費用の総額は、日々の信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。運用管理費用は、毎日計上され、毎計算期間の最初の6か月終了日（休業日の場合、翌営業日）および毎計算期末または信託終了のときに信託財産から支払われます。	為替ヘッジなし／年2回決算型 為替ヘッジあり／年2回決算型 運用管理費用の総額は、日々の信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。運用管理費用は、毎日計上され、毎計算期末または信託終了のときに信託財産から支払われます。			
投資対象とする 投資信託証券	年率0.825% (税込)	投資対象ファンドにおける運用管理費用等です。		
実質的に負担する 運用管理費用	年率1.9525% (税込) 程度			
その他の費用・ 手数料	「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。		

※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問合わせください。

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。また、上場不動産投資信託は市場価格により取引されており、費用を表示することができません。

お申込みメモ

※くわしくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

購入単位	最低単位を1円単位または1口単位として販売会社が定める単位	
購入・換金価額	購入・換金申込受付日の翌営業日の基準価額（1万口当たり）	
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。	
申込受付中止日	ニューヨーク証券取引所またはオーストラリア証券取引所のいずれかの休業日（日本の休業日を除きます）の前営業日 （注）申込受付中止日は、販売会社または委託会社にお問合わせください。	
申込締切時間	午後3時まで（販売会社所定の事務手続きが完了したもの）	
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行なうために大口の換金申込みには制限があります。	
購入・換金申込受付の中止および取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情が発生した場合には、購入、換金の申込みの受け付けを中止すること、すでに受け付けた購入、換金の申込みを取消すことがあります。	
信託期間	2024年4月25日まで 為替ヘッジなし／年1回決算型：2019年4月17日当初設定、為替ヘッジなし／年2回決算型：2020年2月3日当初設定、 為替ヘッジあり／年1回決算型：2020年7月31日当初設定、為替ヘッジあり／年2回決算型：2020年7月31日当初設定 受益者に有利であると認めるときは、受託会社と合意のうえ、信託期間を延長できます。	
繰上償還	<ul style="list-style-type: none">● 為替ヘッジなし／年1回決算型および為替ヘッジなし／年2回決算型が主要投資対象とするアンカーMFGグローバル株式ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）が存続しないこととなる場合、為替ヘッジあり／年1回決算型および為替ヘッジあり／年2回決算型が主要投資対象とするアンカーMFGグローバル株式ファンド（為替ヘッジあり）（適格機関投資家専用）が存続しないこととなる場合には、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了（繰上償還）させます。● 次のいずれかの場合には、委託会社は、事前に受益者の意向を確認し、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、繰上償還できます。<ul style="list-style-type: none">・受益権の口数が30億口を下回るようになった場合・信託契約を解約することが受益者のために有利であると認めるとき・やむを得ない事情が発生したとき	
決算日	為替ヘッジなし／年1回決算型 為替ヘッジあり／年1回決算型 ：毎年4月25日（休業日の場合、翌営業日） （注）為替ヘッジあり／年1回決算型の第1計算期間は、2021年4月25日（休業日の場合、翌営業日）までとします。	為替ヘッジなし／年2回決算型 為替ヘッジあり／年2回決算型 ：毎年4月25日および10月25日（休業日の場合、翌営業日） （注）為替ヘッジあり／年2回決算型の第1計算期間は、2021年4月25日（休業日の場合、翌営業日）までとします。
収益分配	年1回、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。 （注）当ファンドには、「分配金再投資コース」と「分配金支払いコース」があります。なお、お取扱い可能なコースおよびコース名については異なる場合がありますので、販売会社にお問合わせください。	年2回、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。
課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。配当控除、益金不算入制度の適用はありません。公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。なお、当ファンドの非課税口座における取扱いは販売会社により異なる場合がありますので、くわしくは、販売会社にお問合わせください。 ※税法が改正された場合等には変更される場合があります。	
委託会社	大和アセットマネジメント株式会社	受託会社 為替ヘッジなし／年1回決算型 為替ヘッジなし／年2回決算型：三井住友信託銀行株式会社 為替ヘッジあり／年1回決算型 為替ヘッジあり／年2回決算型：三菱UFJ信託銀行株式会社

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は大和アセットマネジメント株式会社が作成した販売用資料です。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失はすべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。
- 投資信託は預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は投資者保護基金の対象ではありません。
- 当資料で掲載した画像等はイメージです。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆さまの実質的な投資成果を示すものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。
- 分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。
- 当資料でご紹介した企業はあくまでも参考のために掲載したものであり、個別企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに組入れることを示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management